

企画シンポジウム—認知神経科学会 30 年の歩みと今後の展望—

認知神経科学について

—脳波・誘発電位・事象関連電位を指標とした知覚研究から考える—

諸富 隆

北海道大学名誉教授

認知神経科学は、独自の科学として成立し得るか。独自の科学として成立するためには、対象と方法が明確でなければならない。Kandel et al 監修の「Principles of Neural Science (Sixth Edition) 2021」の目次には認知神経科学がこれまで対象としてきた殆どが網羅されている。この大部の著書では、学問領域としての認知心理学、生理心理学、精神物理学について、一定のページを割いて触れられている。しかし、認知神経科学についての独立した記述はなく、索引にも項目として載せられていない。「認知神経科学会」の初代会長の杉下守弘氏が学会誌「認知神経科学」の創刊の辞で述べられているように「認知神経科学という用語は精神あるいは心の神経科学という意味である」とすれば、この場合の神経科学の方法が問われなくてはならない。認知神経科学は何を目的に、何を明らかにすべきか。これまでほとんど日本心理学会において知られることがなかった北大教育学部特殊教育・臨床心理学講座の脳波実験室とそこでの実験結果の一部について、及び岩手大学教育学部心理学科において竹井機器の協力のもとに製作した2台のタキストスコープとそこでの実験結果の一部について紹介する中でそのことについて考えてみたい。